

プレスリリース

2026 年度第 1 四半期 iCONM/CHANGE ニュースレター発行

報道関係者 各位

平素は大変お世話になっております。

公益財団法人川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター（センター長：片岡一則、所在地：川崎市川崎区殿町、略称：iCONM）は、同センターの活動およびニュースを綴った iCONM ニュースレターを四半期ごとに発行しています。2026 年度第 1 四半期（4 月～6 月）における弊センターの活動をまとめた「iCONM/CHANGE 2026 年度ニュースレター夏号」を 本日付で発行しましたので、添付させていただきます。ご興味ある内容がございましたら是非お問い合わせください。

本ニュースレターは、以下の構成となっております。

- 挨拶/ 片岡一則センター長
- ハイライトニュース 13 件
 - 2025 年度活動報告書を発行
 - 「看護工学ラボ」を新設
 - 持田祐希 副主幹研究員が JSPS 学術変革領域 B に採択
 - インドネシア・バンドン工科大学から研究者が来所
 - 駐日スペイン大使館と参事官が iCONM を訪問
 - Dr. Janice Kang が基質レベルでのがんワクチンの調整法について講演
 - 片岡センター長らが Angewandte Chemie International Edition の Top Viewed Article Award 2025 を受賞
 - 川崎市立中学校新任理科教員が iCONM を訪問
 - 川崎総合科学高校科学科 2 年生の生徒が iCONM を見学し、研究者と交流
 - 位高啓史・主幹研究員ら虚血性障害を負った心筋細胞を復活
 - 川崎市内の薬局で実習中の薬学部 5 年生を対象とした実務教育研修を iCONM で実施（2026 年 2 回目）
 - プロジェクト CHANGE 第 8 回全体会議開催
 - 一木隆範・主幹研究員ら AI を用いたナノ粒子の形状分析法を発表
- Cross Culture（異文化交流）ニュース 2 件

- 第 35 回 Cross Cultural Event を開催（韓国・浦項工科大学校（POSTECH））
- 第 36 回 Cross Cultural Event を開催（イタリア・ミラノ）
- 発表論文・叢書 / 2026 年 4 月～6 月に公開された 18 報のリスト
- コラム/ 2026 年 4 月～6 月に公開されたコラム 3 報のリスト
- イベント予告/ 第 5 回 CHANGE シンポジウム～田中ひかる先生 特別講演会の予告～
- 編集後記/ iCONM イノベーション推進チーム

尚、四半期ごとに発行するニュースレターのバックナンバーは以下のサイトから閲覧可能です。

https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/activities_news_letter.html

以上

ナノ医療イノベーションセンターについて

ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）は、キングスカイフロントにおけるライフサイエンス分野の拠点形成の核となる先導的な施設として、川崎市の依頼により、公益財団法人川崎市産業振興財団が、事業者兼提案者として国の施策を活用し、平成 27 年 4 月より運営を開始しました。有機合成・微細加工から前臨床試験までの研究開発を一気通貫で行うことが可能な最先端の設備と実験機器を備え、産学官・医工連携によるオープンイノベーションを推進することを目的に設計された、世界でも類を見ない非常にユニークな研究施設です。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>

プロジェクト CHANGE について

文部科学省/JST による「令和 4 年度共創の場形成支援プログラム COI-NEXT」（共創分野・本格型）に川崎市産業振興財団（理事長：鈴木 毅、所在地：川崎市幸区、略称：KIIP）が代表機関となり申請し、2022 年 10 月 25 日に採択された COI-NEXT 川崎拠点のことをプロジェクト CHANGE と呼びます。「医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会」をビジョンに掲げ、少子高齢社会にあって負担が増える医療職種の中でも、これまで工学がほとんど介入してこなかった看護領域に特に着目してケア業務の負担軽減を工学の力で行うとともに、老化に抗う身体を造る術について研究開発を行い社会実装します。さらには、市民のケアコンピテンシー（ケアする力）を高め、誰もが簡便に扱えるケア製品やシステムを開発します。

<https://change.kawasaki-net.ne.jp/>

2026 年 7 月 24 日